

美濃和紙の里会館 / 紙漉き体験

美濃和紙を理解するには、作ってみるのが一番です。美濃和紙の里会館では、和紙職人が使うのと同じ原料と道具を使って紙漉き体験ができます。1 日数回にわたり、1 回 1 時間弱の紙漉き体験コースが 3 種類提供されており、事前予約で参加できます。

美濃判：美濃和紙をつくる

美濃判紙漉き体験では、紙作りの基本を学びます。まずは、パルプ状になった須楮（こうぞ）の繊維とねべし（繊維を分散させる粘性物質）を水に加えてどろどろにし、竹簀を使って紙を形成していくという工程の実演から始まります。その後、参加者は自分の紙を作ります。竹簀が木枠にはめ込まれているので、これを使ってパルプ状の水をすくいあげます。水が木枠からこぼれないようにしながら、縦、縦、横、横と、木枠を揺ります。薄い繊維の膜が竹簀上に均等に広がるまで、この工程を数回繰り返します。

できた紙は、乾燥した葉や色型抜き紙入りにすることもできます。これが終わると、大きな金属製の乾燥器の上で乾燥させます。1 枚（33 x 45 センチ）の用紙ができるまでに約 20 分、乾燥には約 5 分かかります。

落水紙：水模様をつける

このコースでは、美濃判の主な制作工程が用いられますが、乾燥させる前に、普通の水を使って用紙に模様をつけます。紙の型や模様付きの金網を使い、紙の一部を覆ってから、水をかけます。

用紙の水がかかった部分は、他よりも薄くなります。紙の型や金網で覆われていた部分は分厚いままになり、逆透かし模様が完成します。簡単なスプレー模様なら、用紙を覆わずに作ることができます。

落水紙法を使った製紙は約 30 分、乾燥には約 5 分かかります。

はがき：ポストカードづくり

このコースでは、はがきを 6 枚作ることができます。工程は美濃判と同じですが、はがきサイズに分割された枠を使用します。

パルプ状の水をすくって素早く流し、厚めの紙を成形します。はがきは、乾燥した葉や色型抜き紙入りにもできます。模様入りにした場合は、上からさらにパルプ状の水を流し込みます。

はがきは通常の紙よりも分厚く、乾燥に時間がかかります。はがきの作成は約 40 分、乾燥には 15 分を要します。

集中コース

美濃和紙の里会館では、和紙職人を目指す方のためのより詳細なワークショップやコースが用意されています。1 日ワークショップや 1 か月ワークショップでは、技術を磨き、和紙産業のことをさらに知ることができます。美濃市の職人たちの多くは、美濃和紙の里会館の 1 か月コースから始めています。

各ワークショップは日本語で行われます。